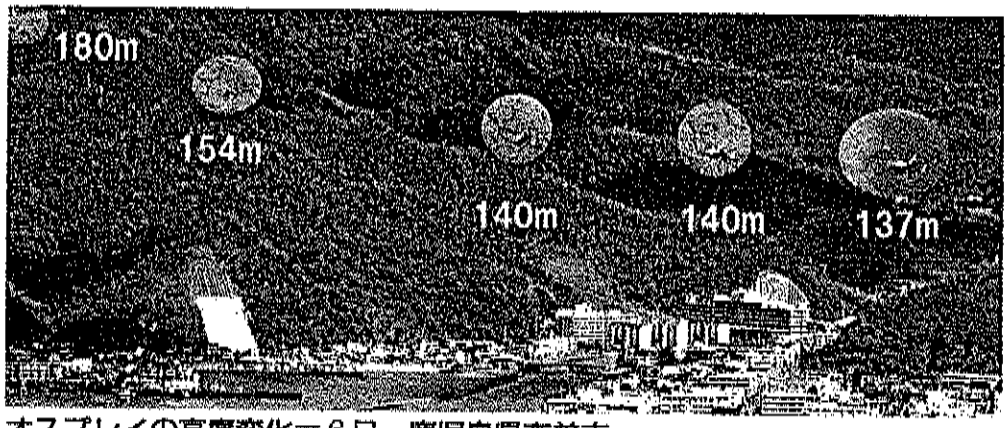
10/13 赤旗



オスプレイの高度変化＝6日、鹿児島県奄美市名瀬（低空飛行解析センターの報告書から）

オスプレイ 高度140メートルを飛行

鹿児島・奄美 日米合意違反の疑い

6日午後4時ごろ、鹿児島県奄美市名瀬一帯を米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）所属のMV22オスプレイ2機が低空飛行した問題で、うち1機の海抜高度が140㍍前後で、航空法が定める最低安全高度に違反した飛行とみられることが、低空飛行解析センターの調査で分かりました。

オスプレイの画像は市民が撮影。低空飛行解析センターによると、撮影ポイントの赤崎公園の海抜高度は175㍍。5枚の連続写真からオスプレイの高度を測定。西南西から東北東にむけて、137㍍→140㍍→140㍍→154㍍→180㍍と推移していることが分かりました。

航空法の施行規則では、最低安全高度を▽人口密集地では航空機を中心に水平距離600㍍の範囲内の最も高い建物から300㍍の高度▽人家のない地域や水面上空から150㍍と定めており、これらを明確に下回っています。

米軍機は日米地位協定で航空法の最低安全高度基準を除外されていますが、1999年の米軍低空飛行訓練に関する日米合意で、在日米軍は国際民間航空機関（ICAO）や日本の航空法の最低高度基準を用いるとしており、この合意に反しています。

低空飛行解析センターの大野智久代表は「撮影者によると、『複数機で夜間も襲来し、病院の周辺を爆撃しているみたいに旋回することもある』とのこと。市民の安全のため、政府や自治体の毅然（きぜん）とした姿勢を求めたい」と話しています。99年の日米合意は、学校や病院にも「妥当な考慮を払う」としています。

ノーベル経済学賞 米大の3氏

実証的な研究

【ロンドン＝時事】スウェーデン王立科学アカデミーは11日、今年のノーベル経済学賞をデービッド・カード米カリフォルニア大バークレー校教授(65)ら